

- 自動車トランスミッション用歯車を主に製造、将来的なEV化を見据え、産業用ロボット減速機用歯車にも業務範囲を拡大。自動化・省人化設備を積極的に導入した新工場設置。
- 自動化・省人化は、25年前からトップダウンにより現場で取り組み、自動化ノウハウ蓄積と人材育成を実現。業況に応じて、自社で柔軟に自動化工程を構築可能な点が強み。
- 事業拡大局面においては、自動化・省人化により、大幅に人員を増やすのではなく、既存人材の多台持ち等による生産性向上に重点を置き、コスト競争力強化、売上拡大を実現。

<会社紹介>

本社外観（大府市）



自動車向けエンジン用歯車 （歯研仕様）



本社工場（自動化ライン）



歯車品質検査装置



<具体的な取組>

- 経営強化税制を活用、自動化設備を積極的に導入。同一設備とすることで、業況に応じて、自動車から産業ロボット向け、少量多品種への対応等、臨機応変に自動化ラインを変更。今後、設備稼働状況の見える化を進め、更なる生産性向上に繋げる。
- 自動化を自社でできるようにすべきという社長の方針の下、現場がメーカーと一緒に検討を重ね、バラ積み部品を3Dカメラで識別し、産業用ロボットが「つかむ」という工程等の自動化を実現。
- 自社開発技術「CBN電着ウォーム歯研」は、研削により歯車精度向上を実現。低コスト、静音性に優れ、将来性に期待。事業再構築補助金の活用により、歯車の品質検査装置を導入。EV向け部品の研究開発にも活用し、競争力強化に繋げる。